

各 位

2013年8月1日  
株式会社リットーミュージック

## 音楽専門誌『サウンド&レコーディング・マガジン』の iPad 版が 2013年10月号よりプリント版と同時展開をスタート！

---

インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古森優）は、音楽クリエイターのための専門誌『サウンド&レコーディング・マガジン』の iPad 版を、2013年9月14日発売の2013年10月号より、既存のプリント版と並行して展開致します。

レコーディング機器やシンセサイザー、楽曲制作ソフトなど音楽クリエイター向けの情報を提供している月刊誌『サウンド&レコーディング・マガジン』の iPad 版は、プリント版の豊富なコンテンツはそのままに、音声コンテンツや機材写真のズームなどデジタルならではのインタラクティブな機能を多数盛り込んだ、国内でもあまり例のないリッチな電子雑誌となります。まったく新しい読書体験をお届けする同誌の iPad 版は、9月14日、雑誌や新聞などの電子コンテンツを提供している Apple の Newsstand より配信致します。同時に、同誌バックナンバーから記事を選びすぐった無料お試し版も提供致します。

### ●画像のスライドショー、拡大、パン、ズーム（製品レビューなど）

紙の誌面ではスペースの関係から大きさが限られていたビジュアル情報も充実。製品紹介のページなどでは高解像度の画像を収録し、表示画面を自在に拡大／スクロールして細部まで確認したり、サムネイルをタップし大きな画像をポップアップさせて閲覧することも可能。

### ●音声および動画の埋め込み（特集記事など）

音声コンテンツや動画を画面をタップすることでその場で再生可能。これまで付録 CD やインターネットを通じて誌面と連動する音声コンテンツや動画を提供してきましたが、プレーヤーやコンピューターを操作する必要があり、スムーズな読書体験とは言えませんでした。iPad 版では読んでいる部分に対応した音声がかちんと再生可能で、次のページに進むと再生が自動的に止まるなどストレス・フリーです。

### ●360度パノラマビュー（スタジオ／ライブハウス取材など）

スタジオやライブハウスなどのホール内を360度見渡せるパノラマ写真を追加するなど、デジタルならではの臨場感を得られる写真も掲載。

### ●Webリンク、map アプリリンク

記事内および広告ページで、Webブラウザと連携する“ハイパーリンク機能”、地図アプリを立ち上げて確認することができる“マップリンク”機能を搭載。

●複数ページからなる記事は、縦方向にもスクロール  
ページめくりは画面を指でスワイプするだけで直感的かつ滑らか。

●iTunes Store へのリンク

記事内で紹介される楽曲は、ワンタッチで iTunes Store にて試聴&ダウンロード可能。

- 電子雑誌：『iPad 版 サウンド&レコーディング・マガジン』
- 価格：未定
- 対応ハードウェア：Apple iPad (iPad2 以降を推奨)、iPad mini
- 対応 OS：iOS5 以降 \*iPhone、iPod touch 等には対応していません

<『サウンド&レコーディング・マガジン』とは>

音楽クリエイターのための専門誌。1981年創刊以来、音楽制作を行うプロ/アマチュアに向け、レコーディング機器やシンセサイザー、楽曲制作ソフトなどの情報を提供する月刊誌。毎月15日発売。

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地：〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-11 住友不動産九段北ビル 6F □設立：1978年4月10日 □資本金：1億6,900万円 □決算期：3月31日 □従業員数：100名(2011年3月31日現在) □代表取締役：古森優 □事業内容：音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://impress.jp/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：関本彰大、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック マーケティング統轄部宣伝販促部 担当：市原  
Tel: 03-5213-6262 / E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)

初対談! 坂本龍一×中田ヤスタカ〜「機材」「音楽と環境」を語り合う

Free Sample Edition

# Sound & Recording

サウンド&レコーディング・マガジン

FOR MUSICIANS, PRODUCERS, ENGINEERS & ALL CREATORS

Magazine

中田ヤスタカ  
[capsule]

坂本龍一



001 EDMからダブステップ、そしてジュークまで! 「2013年型」音楽スタイル攻略法

002 ミュージシャン/エンジニアに聞く “あなたの愛用ヘッドフォンを教えてください!”

140BPM / 70BPM を行き来する UK 発ベース・ミュージック

# ダブステップ

—Dubstep—

## ダブステップのキモ!

▶ 曲テンポは 140BPM 前後

▶ 70BPM のハーフ・ステップ構造を内包

▶ “存在そのもの” が強調されたベース

▶ Text by 100mado

日本を代表するダブステップ・イベント「Back To Chill」の立ち上げから参加。最近では100BPMのスロー・テクノなど多岐にわたる活動を展開している



▶ Recent Work

『変身 ~The Metamorphosis~』  
DJ TECHNORCH feat. 100mado  
MURDER CHANNEL: MURCD-024



## タメと疾走感が1曲の中に共存

ダブステップの発生には諸説ありますが、イギリス内でも2002年前後はジャンルを指す言葉としての認知度は低く、2004年リリースの名コンピレーション『Grime』のライナーノーツの冒頭では、“グライム、サブロー (Sublow)、ダブステップというように、いろいろな人がいろいろな呼び方をしている……ジャーナリストはそれを分類することができない”とあるように、当時のUKアンダーグラウンド・シーンは相当混んとしていたようです。ダブステップの創成期に活躍したアーティストの多くは、UKガラージ〜ダーク・ガラージのシーンともつながりが深く、ダブステップのルーツ／初期作品をコンパイルした『Roots Of Dubstep』で聴かれる楽曲は、そうしたアプローチのものが多くなっています。

現在最も“ダブステップ的”とされているリズム

・パターンは、140BPMの3拍目にスネアが打ち込まれる、いわゆる“ハーフ・ステップ”解釈(ハイハットは140BPMでもスネア&キックが70BPMでシーケンスしていたりする)のものが多いです。ダブステップのビートは多岐にわたり、先述したUKガラージから受け継ぐ実験性や遊び心も感じさせ、実に奥が深いのですが、やはりダブステップがもたらした最大の功績は、楽曲の設定テンポ(140BPM)とその半分(70BPM)を行き来することで、タメの効いたビートと疾走感を1曲の中に共存させたことでしょう。実際、昨今のポップスではこのハーフ・ステップを1つのアレンジとして取り入れている例が多く見られますし、もちろんアンダーグラウンドなドラムンベースやジュークにも、その影響は波及しています。

リズム・シーケンスの構造が多彩であるにもかかわらず、1つのジャンルとして扱われること

DE DE MOUSE 

CHOKKAKU 

kz   
livetune

イルリメ 


SUGIZO 

DJ Watarai 


中野雅之   
BOOM BOOM SATELLITES

YAMAAN 

Dub Master X 

飛澤正人 

TOWA TEI 


zAk 


DECO\*27 


D.O.I. 

沙田瑞紀   
ねごと

奥田泰次 


ヒヤダイン 

益子樹 

蔦谷好位置 


早乙女正雄 

80KIDZ 

美濃隆章 

mabanua 

葛西敏彦 

西寺郷太 

渋谷慶一郎 

坂本慎太郎 

“あなたの愛用ヘッドフォンを教えてください！”

**File06** テイトウワ Photo: Hiroki Obara Hair&Make: MASAKO IDE (air-notes)

<Profile> 1990年にディー・ライトのメンバーとして世界デビュー。その後ソロに転じ、DJや楽曲プロデュース、商品のブランディングなど多方面で活躍。昨年末には初の個展“ecollage”を開催



iTunes

■ Recent Work

【LUCKY】  
TOWA TEI  
ワーナー:WPCL-11516

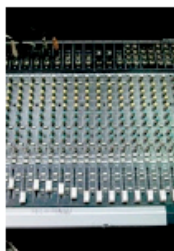
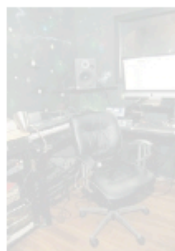
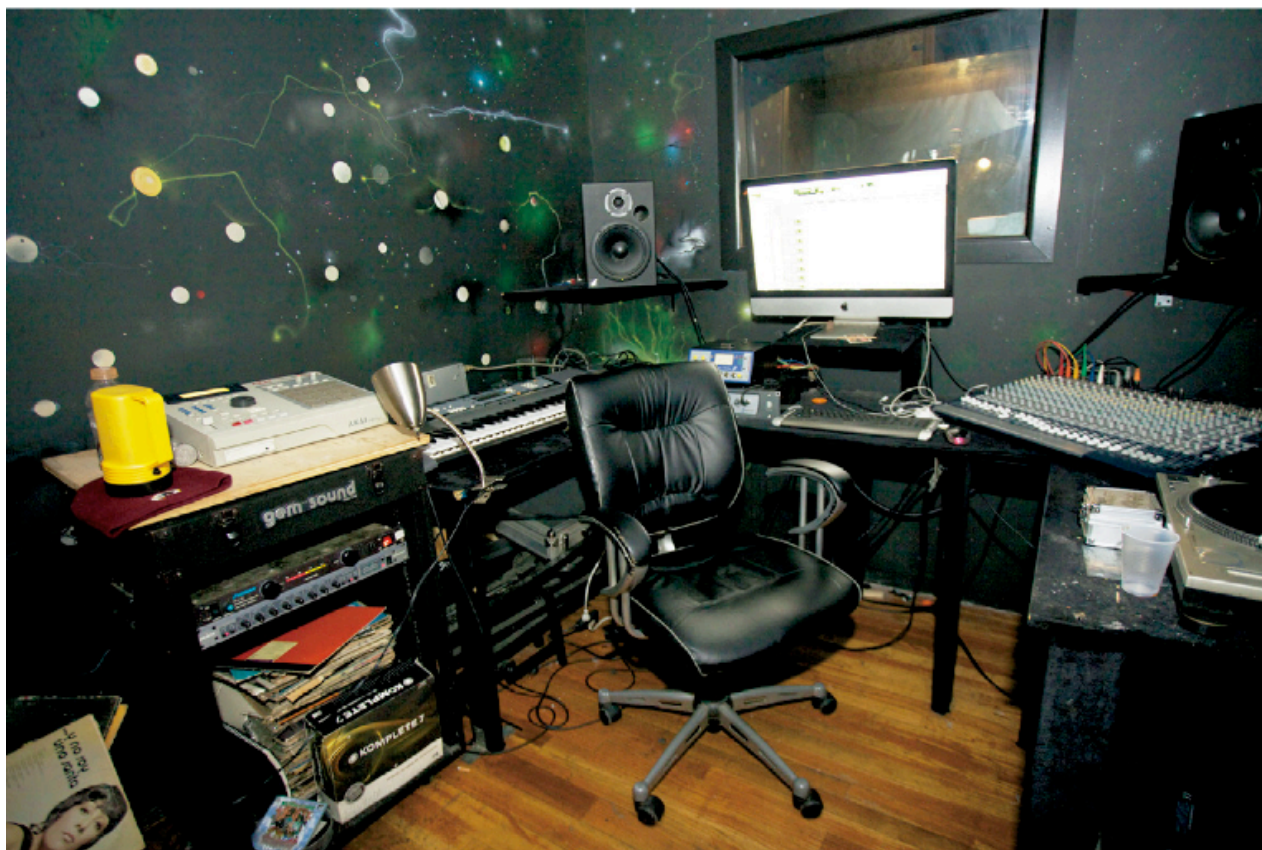
TOWA TEI

BOSE

OE2



マンハッタンからもほど近い、倉庫やオフィスが多いクイーンズのロング・アイランド・シティにあるサイコ・レスのプライベート・スタジオ。ラージ・プロフェッサー「Barber Shop Chop」などのミュージック・ビデオでも使用されたスポーツ・バーのラウンジに併設する4畳半ほどのスペースをコントロール・ルームとして使用しており、奥にはボーカル・ブースも見える。APPLE iMacにはAVID Pro Toolsに加え、ABLETON LiveやPROPELLERHEAD Reason、NATIVE INSTRUMENTS Komplete 7をインストール。写真右手にはサンプリング用のアナログ・ターンテーブルTECHNICS SL-1200MK2、デスク左手にはMIDIキーボードとしてYAMAHA EZ-200を設置。モニター・スピーカーはEVENT 20/20を使用している



# YAMAHA Nuage

※価格はシステム構成によって異なる



※写真はNuage Fader×1、Nuage Master×1、オプションのディスプレイとNuage Workspace(専用デスク)を組み合わせたもの

## コントロール・サーフェス&I/Oと Nunedoから成る統合DAWシステム

by 渡部高士 (OVERROCKET)

ついこの間まで、サウンド・エンジニアという仕事の大半は、ノブのたくさん付いた卓の前に座って、スピーカーとスピーカーの間の虚空を見つめながらフェーダーを触るというものでした。この20年で世の中の多くの仕事がコンピューターを相手にするものになるとともに、この仕事も画面を見つめキーボードとポインティング・デバイスでするものになりました。既に最初からそちらで始めた方は、マウスでミックスした方が楽だという話も聞きます。し

かし最近では、また多くのフェーダーとノブでコントロールする方向に戻っているように思えます。ちょうど、YAMAHA DX7やROLAND D-50といったデジタル・シンセが、アナログ・シンセの象徴であるノブを排除して市場を席巻した後、バーチャル・アナログ・シンセが登場し、またノブの時代が到来したのと似ているかもしれません。このNuageはアナログのラージ・コンソールに引けを取らない操作性を持ったDAWシステムです。